

わたしの夢

勇気を与える陸上選手に

山本真史郎さん 下辺見小学校6年生

ぼくの夢は、陸上選手になることです。もともと走るのがあまり速くなかったぼくは、ずっと「いつかもっと速く走れるようになりたいな」と思っていました。そんな時、テレビで世界陸上を見ました。とても速くレーンを走り抜ける選手の姿がすごくかっこよく見えました。憧れを抱いて3年生の頃に陸上クラブに入りました。少しずつ足が速くなっていきました。今、ぼくは、もっと速くなりたいと思いい父といっしょに公園で自主練習もしています。いつか世界陸上に出て、みんなに勇気を与えることができるような陸上の選手になりたいです。



みんなを笑顔にする料理人に

村瀬友唯さん 古河第三小学校6年生

私の将来の夢は、料理人です。なぜなら、母の料理の食材を切っている瞬間の音やその質感を感じることがとても楽しいからです。そして、食材を切ったり焼いたりしていくうちにおいしい料理が出来上がるところは、とてもおもしろいと思います。そこで、私は母のように、楽しみながら一人で料理を作ることに挑戦し、三小の目標にもあるように、みんなをハッピースマイルにしたいです。



出城の会役員の皆さんと校長先生(大谷さんは前列左から3番目)

キラリ
古河ビト

児童の安全な学校生活のために

小学校内の消毒ボランティアを行う
古河第一小学校出城の会の皆さん

児童の新型コロナウイルス感染症防止のため校内の消毒ボランティアを行っている、古河第一小学校出城の会(P.T.A)の皆さん。5月末の休校明けに保護者が目にしたのは、児童たちの感染リスクを減らすために校内を消毒する先生たちの姿でした。保護者として、自分たちにできることで学校に協力したいという提案を受けた出城の会会長の大谷さんは、まず、出城の会の本部役員と学年委員に声を掛け、賛同してくれた40人で校内の消毒を開始。その後、保護者にも協力の輪を広げ、今では延べ151人が参加する活動になりました。大谷さんは、子どもや学校のためにボランティア活動をしてくれる人がこんなにもいることに誇りを感じたそうです。

子どもたちの学校生活は、先生たちのほかに、登下校の見守り隊や地域の人たちなど、多くの人に支えられています。親としてこのような活動に感謝するだけでなく、自分たちができることで学校に協力していきたいと話す大谷さん。まず大人が見本となる行動をすることで、子どもたちに「誰かのために行動することの大切さ」に気付いてもらいたいという思いと共に、これからもこの活動を続けていきます。



▲水回りを消毒する保護者の皆さん



▲階段の手すりなども丁寧に拭きます

~Memo~

学校と協力し、児童・生徒が安心して勉強できる環境をつくる消毒ボランティア。この活動は、市内の小中学校にも広がってきています。